カは 100 kHz まで充分出力しますので，実用になっており，音の Reality は向上しています．

(5) スピーカ

低音用はマンション居室に設置のため，あり合わせのサブウーファです．ヤマハの SW 90 を 2 基と Eclips の 316 SW という TD 仕様のものです．レベルとカットオフ周波数をえらんでいますが，f 特としては満足ではありません．

低中音用にはビクター SX-WD 5 を用い，第 2 図の中域調整用 VR(20 kΩ) によってカットオフ周波数をえらんでいます．このスピーカはウッドコーンのもので，セラミック・スピーカに次いで過渡特性がよいと申せます．

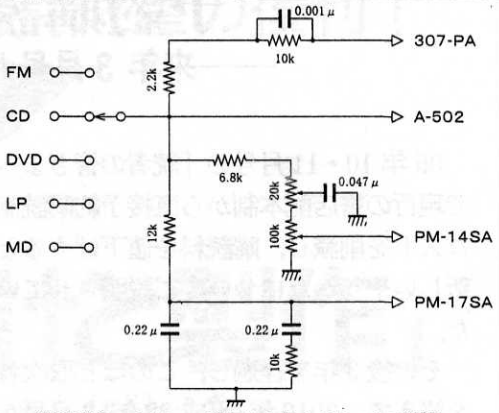
中高域ユニットはムラタの ES 024 で，8 cmφの半球形圧電セラミック発音体にバックロード型ホーンを組み合わせた構造となっています．f_0 が 24 kHz で中高音域のメインとなって全体の音の質を決定しています．音の立ち上がり・立ち下がりのよさが特長でしょう．写真ではそのユニットの上に塩ビ系のリフレクタを付けています．

高音域専用のトゥイータとしてはムラタの ES 103，105 A，フォステクスのリボン・トゥイータ，日立の往年のホーン・トゥイータなどあり合わせのものをひっぱり出して付けています．これはヴァイオリンの複雑な音に少しでも近づけようとしたからにほかなりません．

(6) ソフトウェアへの処理など

CD・DVD ともナノテクシステムズ社の Nespa-pro と称する optical disc finalizer で，光線を 600～720 パルス当ててから使います．再生の前には，低電圧の入力用 RCA プラグなどに接点クリナーを外からスプレーします．室内空気をイオン発生可能なファンまたはハロゲン・ヒータで空気分子を均一化していると音の伝導がよくなる理屈があるそうです．

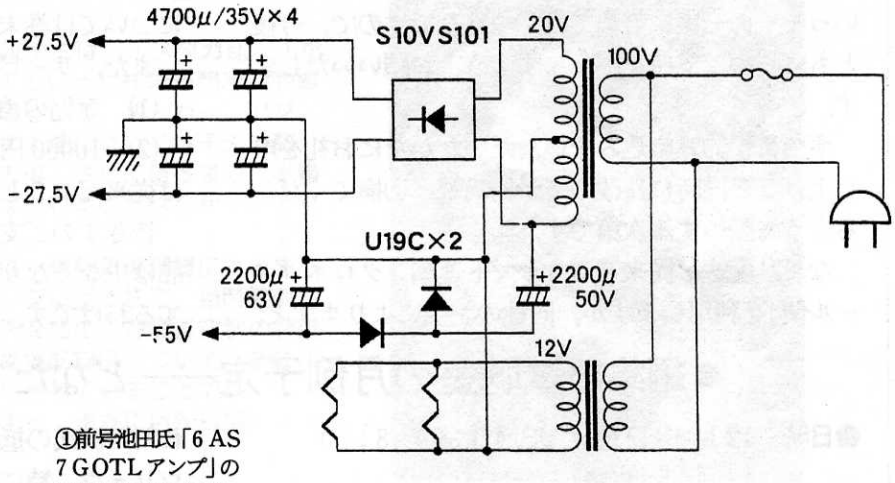
コーン型スピーカで中高音域に分割振動による音のザラつきがあるときは，プラスティックの水きり用ネットをフィルタとして，SX-WD 5 などに使っています．



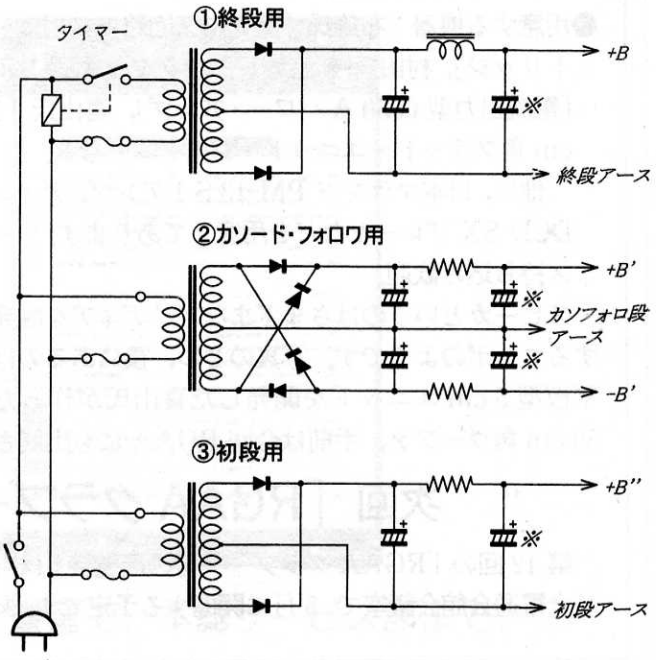
〈第 2 図〉 メイン・ボリウムなしでレベル調整

以上たいへんあらっぽいご報告になりましたが，編集部を通じてのお便りを歓迎します．

● お詫びと訂正 ●



①前号池田氏「6 AS 7 GOTL アンプ」の電源回路がまちがっていました．正しい回路を上図に示します



②前号「クロストーク」欄塚田氏の記事中，電源部リレーとあるのはタイマー，またメイン SW が抜けていました